

平成 27 年 7 月 30 日

関係各位

日本口腔顔面痛学会
理事長 佐々木啓一

拝啓,

猛暑の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

この度、神経障害性疼痛関連学会合同シンポジウム「神経障害性疼痛の診療上の問題点」を開催する運びとなりました。このシンポジウムは、歯科治療に伴う末梢性神経障害性疼痛の診療に関係の深い 4 学会：日本口腔顔面痛学会、日本口腔外科学会、日本歯科麻酔学会、日本歯科薬物療法学会（五十音順）が、神経障害性疼痛の診療上の問題点を提起し、会場の参加者とともに考えることを目的に企画したもので、今回が第 2 回目の開催となります。今回からは、日本歯科医学会の後援もいただくことになりました。

末梢神経傷害は、綿密に診療の計画を立てたととしても、現在の歯科医療では完全に回避できる問題ではなく、しかし、いったん末梢神経に傷害が生じてしまうと患者さんの経験する苦痛は大変に大きいものであることから、この問題に取り組むことは歯科医療界が抱える共通の課題であると言えます。また、メディアにおける報道等から国民の関心も非常に高く、日常歯科臨床で神経障害性疼痛を発症させるリスクを有する私たち歯科医師が、このシンポジウムを通して口腔領域の神経障害性疼痛が持つ問題点を共有し、対応の方向性を検討することは、大変に有意義であると考えます。

つきましては、是非、貴会会員の皆様に本シンポジウムの開催を広報いただき、一人でも多くの歯科医療関係者にご参加いただけますようお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

末筆ではございますが、貴会のますますのご発展をお祈りし、シンポジウム開催のご案内といたします。

敬具